

都市再生整備計画 事後評価シート
長浜まちなか地区

平成27年3月

滋賀県長浜市

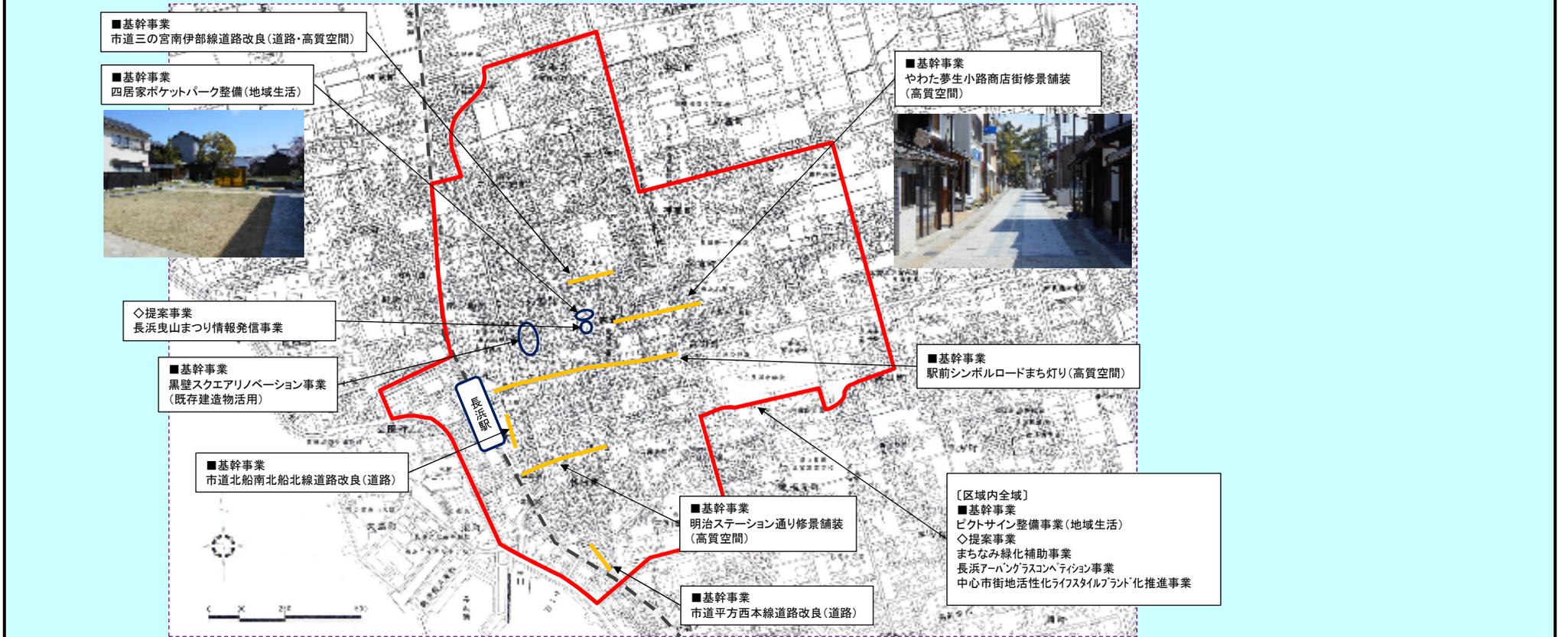
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	滋賀県		市町村名	長浜市		地区名	長浜まちなか地区			面積	180ha	
交付期間	平成22年度～平成26年度		事後評価実施時期	平成26年度		交付対象事業費	610(百万円)	国費率	0.483			
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		基幹事業	事業名 道路(市道三の宮南伊部線)、地域生活基盤施設(四居家ポケットパーク、ピクトサイン整備)、高質空間形成施設(やわたの夢生小路、明治ステーション通り、駅前シンボルロードまち灯り)								
			提案事業	長浜曳山まつり情報発信事業、まちなみ緑化推進事業								
	当初計画から削除した事業		基幹事業	道路(市道公園東西5号線)、地域生活(駅前シンボルロードポケットパーク)	削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
			提案事業	四居家住宅庭園整備事業、旧長浜駅舎復元事業、事業評価調査	道路:地権者と合意できず事業中止 広場:適切な場所を確保できず事業中止			影響なし				
	新たに追加した事業		基幹事業	道路(市道北船南北船北線)、高質空間(市道三の宮南伊部線、市道平方西本線)、既存建造物活用(黒壁スクエアリノベーション事業)	道路:観光客等の歩行安全を確保し回遊性を高めるため 高質空間:地元との協議が整ったため 既存建造物活用:地域の拠点性を高めるため			指標3の数値目標を上方修正				
			提案事業	長浜アーバンガラスコンペティション事業、四居家住宅庭園整備事業、中心市街地活性化ライフスタイルプラント化推進事業	当初関連事業に位置付けていたが、事業計画が整ったため			影響なし				
交付期間の変更		当初	平成22年度～平成26年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		なし						
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ
	指標1	歩行者・自転車通行量	人/日	32,240	H20	32,800	H26	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	予定時期
	指標2	宿泊観光客数	人/年	323,100	H20	342,000	H26					平成27年12月
	指標3	黒壁への年間観光客数	人/年	1,920,000	H20	2,100,000	H26					平成27年6月
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ
	その他の数値指標1						モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期
	その他の数値指標2											
4)定性的な効果発現状況												
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								
	住民参加プロセス	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								
	持続的なまちづくり体制の構築	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								

様式2-2 地区の概要

長浜まちなか地区(滋賀県長浜市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標	歴史と伝統文化が薫る中心市街地に交流空間の創出	歩行者・自転車通行量	単位:人/日	32,240	H20	32,800	H26	25,500	H26
目標1	公共交通の利用と連携した中心市街地の賑わいの再生	宿泊観光客数	単位:人/年	323,100	H20	342,000	H26	374,500	H26
目標2	歴史的資源を活用した魅力の向上	黒壁への年間観光客数	単位:人/年	1,920,000	H20	2,100,000	H26	2,000,000	H26
目標3	既成市街地外縁部における生活機能の確保								



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地における回遊性の向上については、道路の修景舗装やサイン整備を行ったことで面的な繋がりが図れたとともに、新たな動線も確保することができた。 ・地域の歴史や伝統文化等をPRするためのイベント開催や店舗展開を行い対外的な情報発信することができた。一方で居住者や地域住民に向けた周知と定着を図ることが必要である。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・まちなみの修景保存については、質的向上を図るためのハード整備を進めるとともに、実施効果を活かすソフト事業を行っていく。 ・伝統文化など地域独自の魅力について、地域内での機運醸成と対外的な情報発信を図っていく。 ・主な観光施設への動線となる道路について修景舗装などの誘導策を行い、さらなる回遊性の向上を図っていく。 ・まちなかの居住環境の整備に向けて、居住に対する助成制度の充実や必要な都市機能の集約化を図る。